

「ディスカバー^む農^ら山漁村の宝」有識者懇談会
(第2回選定)

日時：平成27年5月18日(月)

17時40分～18時10分

場所：総理大臣官邸4階大会議室

- 1 開会
- 2 有識者懇談会座長挨拶
- 3 官房長官挨拶
- 4 農林水産大臣挨拶
- 5 「ディスカバー^む農^ら山漁村の宝」(第2回選定)の選定方針、今後の進め方等について
- 6 意見交換
- 7 閉会

【配付資料】

資料 「ディスカバー^む農^ら山漁村の宝」(第2回選定)の実施について

別紙 選定方法等の見直しについて

参考1 「ディスカバー^む農^ら山漁村の宝」有識者懇談会委員名簿

参考2 「ディスカバー^む農^ら山漁村の宝」選定地区のこれまでの取組について

参考3 「ディスカバー^む農^ら山漁村の宝」選定による効果について(アンケート調査)

平成27年5月18日

「ディスカバー農山漁村の宝」(第2回選定)の実施について

1. 趣旨

- (1) 「ディスカバー農山漁村の宝」は、農山漁村の活性化の優良事例を選定・顕彰することにより同様の取組を全国に広めようとする取組であり、平成26年からスタート。
- (2) 平成26年選定(第1回)では、全国から23地区を優良事例として選定。昨年6月、選定地区の代表者等を総理官邸に御招待し、安倍総理御出席の下、交流会を開催。
- (3) こうした成果を踏まえ、優良事例の横展開を一層推進するため、平成27年選定(第2回)を実施する。

2. 選定方法等

第1回選定の実施状況や有識者委員の意見等を踏まえ、第2回選定がより効果的に実施されるよう、以下のとおり選定方法等を見直し。

(1) 「グランプリ」の選定

- ① 選定地区(20地区程度)の中から、最優良事例として「グランプリ」を選定。
- ② 「グランプリ」選定に当たって、全国から応援コメントを一般公募。
- ③ 「グランプリ」は、官邸交流会当日に発表。

(2) 「特別賞」の選定

- ① 地方創生や女性の活躍など現下の重要な政策課題への対応に資する事例を「政策テーマ特別賞」として選定。

この他、取組を開始したところであるが、今後発展が見込まれる事例等を「座長特別賞」として選定。
--
- ② 「特別賞」は、「グランプリ」と併せて官邸交流会当日に発表。

(3) その他

- ① 他薦の仕組みの導入、地域おこし協力隊や地方創生コンシェルジュ等への情報提供を通じた新規公募の掘り起こし。
- ② 有識者委員の総意を選定に反映させる観点から、主担当・副担当ブロックの割り当てを廃止。

3. 今後のスケジュール

5月18日 実施方針決定、公募の開始【第1回有識者懇談会】



(公募期間は8週間)

7月10日 公募終了、有識者懇談会委員による審査開始

9月頃 選定地区の決定【第2回有識者懇談会】

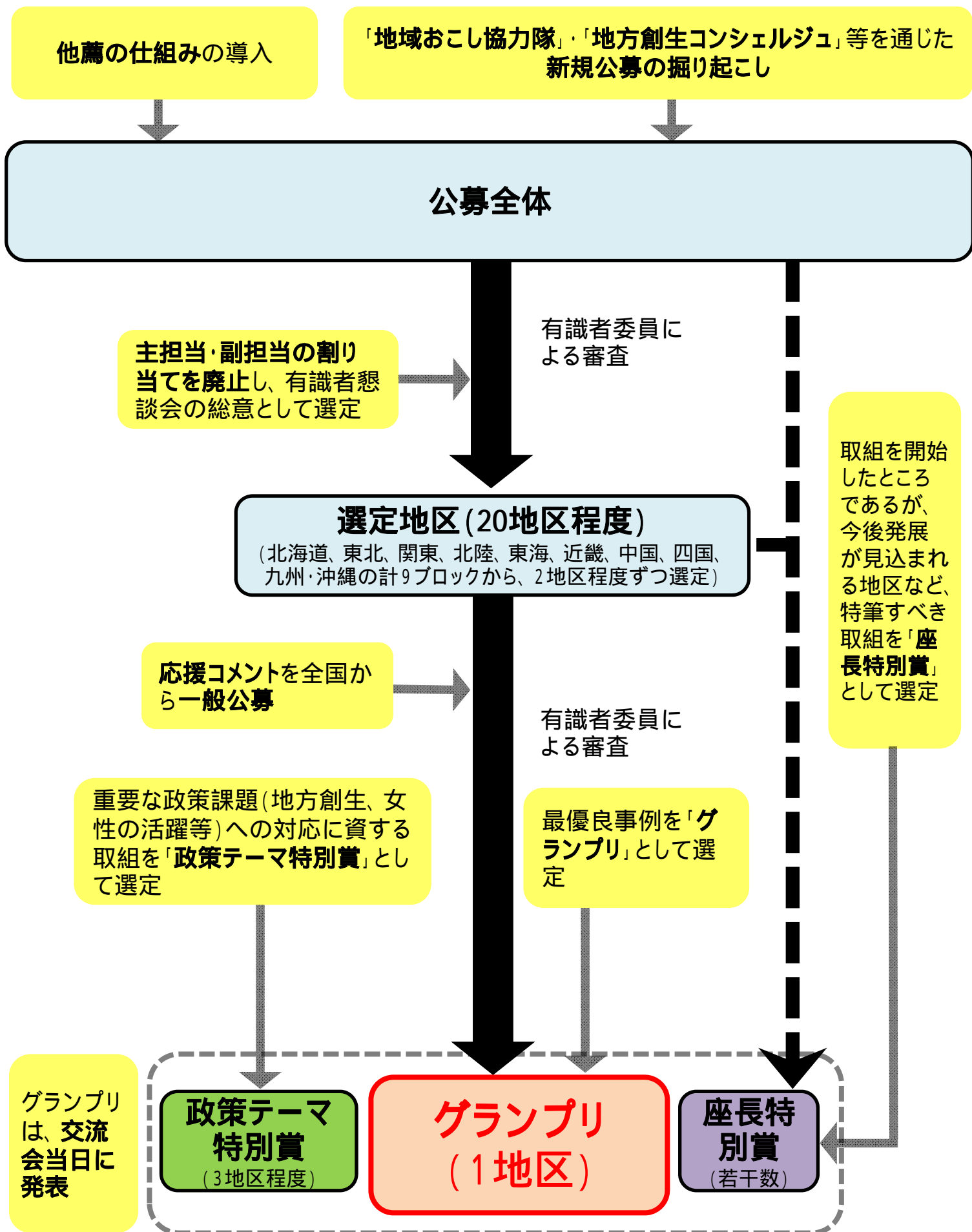
～9月下旬 選定地区からグランプリを決定するに当たって
一般から「応援コメント」を募集

10月頃 グランプリ・特別賞の決定【第3回有識者懇談会】
選定地区の代表者等を総理官邸に招待し、内閣総理
大臣御出席の下、交流会を開催

【選定証授与式及び交流会】

10月以降 選定地区や「ディスカバー農山漁村の宝」の国内外向けPR、
都内で開催される各種イベントへの出展促進、シンポジウ
ムの開催 等

選定方法等の見直しについて



「ディスカバー^{むら}農山漁村の宝」有識者懇談会委員

- あん・まくどなると 上智大学大学院教授、慶應義塾大学特任教授
- 今村 司 (株)NPBエンタープライズ代表取締役
- 織作 峰子 大阪芸術大学教授、写真家
- 田中 里沙 (株)宣伝会議取締役副社長兼編集室長
- 東谷 望史 馬路村農業協同組合代表理事組合長
- 永島 敏行 俳優、(有)青空市場代表取締役
- (座長) 林 良博 国立科学博物館館長
- 三國 清三 オテル・ドウ・ミクニ オーナーシェフ
- 向笠 千恵子 フードジャーナリスト、食文化研究家、
郷土料理伝承学校校長
- 横石 知二 (株)いろどり代表取締役社長

(五十音順：敬称略)

「ディスカバー農山漁村の宝」選定地区のこれまでの取組について

(参考2)



選定証授与式・交流会の開催 (H26.6 於:首相官邸)

選定地区代表者、有識者懇談会委員、政府関係者など約100名が参加。地元産品を持ち寄り安倍総理が試食するとともに、活発な意見交換の場に。

・選定証授与式



・総理挨拶



・総理らによる激励・意見交換会



< 交流会を契機として、選定地区の情報発信や、活動展開が進展 >

(情報発信・活動展開の例)

富良野オムカレー推進協議会 (北海道富良野市)



官邸交流会の様子
(6/24 北海道新聞)



取組の経済効果を紹介する記事 (11/5
日本経済新聞 (北海道版))



雑誌「ニューカントリー」7月号にて紹介



ハウス食品グループが店頭試食会やレシピカード作りに協力、社内報を展開

< 今後の展開方向 >

- ・ 石川県、福井県でオムライス料理に取り組む民間団体と連携し、相互PR活動を展開。
- ・ 土浦カレーフェスティバル等、全国的にイベントへの出店・情報発信を展開。

「ディスカバー農山漁村の宝」選定地区のこれまでの取組について



大長谷村づくり協議会（富山県富山市）



富山県知事による視察の様子（8/10 北日本新聞）



富山県主催「元氣とやま」むらづくり推進大会2014」において特別講演を実施（8/25 富山市）



11/8 ファーマーズ&キッズフェスタ（於：日比谷公園、来場者5万5千人）に出店し、きのこ汁などを販売（写真は、その様子を視察するあべ農林水産副大臣）

< 今後の展開方向 >

- ・ 「ディスカバー農山漁村の宝」選定団体相互の農業研修・現地視察を実施
- ・ 富山県内の近隣のグリーン・ツーリズム団体と連携し、広域的な観光客の獲得を図る

株式会社 篠島お魚の学校（愛知県南知多町）



政府広報インターネットテレビ「徳光&木佐の知りたいニッポン!」による紹介（9/25公開）



農林水産省広報誌「aff」（11月号）にて紹介



10/17 都内で行われたマルシェ（於：東京駅地下通路、来場者6千人）に出店し、黒ダイ、わかめ、のりなどを販売

< 今後の展開方向 >

- ・ 都内等で開催される販売会への積極的な参加や、ロゴマークを添付した商品販売を計画
- ・ 地元の連携団体と共に障がい者就労支援団体の運営する飲食店に魚介類を提供する等新たな取組を模索



「ディスカバ^む農山漁村^らの宝」選定による効果について

趣旨

「ディスカバ^む農山漁村^らの宝」に選定された後、どのような効果や変化があったかについて、23の選定地区に対しアンケート調査を実施。（平成26年9月実施）

〔主な調査項目〕

- 1．選定によりどのような効果があったか
- 2．選定以後、講演や視察の受入等を行っているか
- 3．他の団体等と新たな連携・協力関係が生まれたか
- 4．選定団体の取組を参考として、他の団体で新たな取組が開始されたり、発展した事例があるか

1．主な効果、知名度の向上

（主な回答）

- ・ 知事表敬等の様子が新聞、雑誌、テレビなどで取り上げられ、**知名度が上がった**
- ・ 取組の**参加者のやる気が上がった**
- ・ 来訪者、**来店者が増えた**

（その他の具体例）

- ・ ツーリズムEXPOジャパン、青空市場×行幸マルシェへの参加の機会を得て、**PRの機会が増えた**（篠島お魚の学校）
- ・ 親会社の社内広報誌やホームページで紹介され、**認知度が向上した**（ハートランド株式会社）
- ・ NHK総合の番組に取り上げられた（今帰仁アグー）



2．講演や視察等

- ・ 農政局より視察の受入れ・情報交換。また、企業から農業分野における**新規事業の可能性についての相談**があった。（えがおつなげて）
- ・ 「『元気とやま』むらづくり推進大会」（富山県主催）にて特別講演を行った（大長谷村づくり協議会）
- ・ 全国各地からの視察・研修を受入れ。また道の駅・駅長が普及のため全国で講演を実施。（ふるさと萩食品協同組合）



「ディスカバー農山漁村の宝」選定による効果について



3. 新たな連携・協力

- ・ ディスカバー農山漁村の宝選定団体同士で、現地視察及び農業研修を実施
(大長谷村づくり協議会が、住民自治されだに、えがおつなげて両団体を訪問)
- ・ 自治体(北海道・三重県)の要請を受け、都市農村交流事業を担う人材育成事業として、複数回にわたる出張講義・研究発表を実施(えがおつなげて)
- ・ 県の紹介により、新たに写真愛好家グループと連携した写真展を開催。また、農業研究機関の紹介により、地元のジュンサイ保存活動を実施(穴塚の自然と歴史の会)
- ・ 生産者から、消費者に直接アピールするため商店街を来訪したいとの相談が増えた
- ・ 守山女性部加工組合等、ディスカバー農山漁村の宝選定団体の出品を計画 (ハッピーロード大山商店街振興組合)
- ・ 県や地元食品会社と協同で新商品開発を行うこととなった(農事組合法人はなどう)
- ・ 銀座や新宿の飲食店等と取引が始まった
- ・ 今帰仁村長、今帰仁村商工会を交えて村の振興につき意見交換を予定(今帰仁アグー) 等



4. 取組の横展開等

- ・ 6次産業化で連携する団体が障がい者就労支援団体の運営する飲食店に魚介類を提供
(篠島お魚の学校)
- ・ 地元の食品会社が、地元産雑魚を原料とする新商品(オイル漬け缶詰)を開発
(ふるさと萩食品協同組合)
- ・ 養鶏経営者らが沖縄地鶏を、村商工会が在来種ヤギを、それぞれ試験・生産に向け計画中
(今帰仁アグー) 等

